

仙人通信 187 伊豆ヶ岳 (851m)

伊豆ヶ岳は、秩父への入り口である正丸峠と山伏峠の間に座し、遠くからでも確認できる尖った山頂を持つ3等三角点の山である。又関東ふれあいの道に含まれる山でもある。

県道53号線の山伏峠の北側にある県立名栗げんきプラザの第一駐車場に車を置いて、伊豆ヶ岳と古御岳をピストンするコースとした。

正丸峠と山伏峠方面へ向かう道路の間にある永井谷林道の入り口がスタート点である。林道入り口は通行止めの長い丸太があるが、潜り抜けて30m程進むと、左側の檜の幹に伊豆ヶ岳を示す道標がある。丸太と板で作られた小さな橋を渡ると、コースは檜林の急峻な登りとなり、丸太の階段もある。15分程で緩やかなコースとなり、ツガノキ台である。嘗ては太いツガの木が有ったのであろうが、現在は北側斜面に桜・檜等の落葉樹林で二子山が顔を出す。更に7分程で正丸峠からの関東ふれあいの道と合流だ。

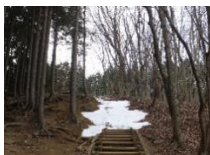
大きな杉の木の間から吾野方面が望めるも、再度檜林の中のコースである。ふれあいの道と言う事もあり丸太の階段が整備されているも、1週間前に降った雪が覆い役に立たない。15分程で小さなピークの五輪山であるが、眺望は無い。30m程下った位置からは東方向が開けるも檜林のコースだ。岩場にロープの掛かった男坂コースと緩やかな女坂コースの分岐である。雪の凍結の事も考えて女坂を進んだ。15分程で男坂コースと合流し、赤味を帯びた岩(チャート)の間を3分程で山頂に立てた。南面の眼下には石灰石の採掘場が、その上には蕨山等の金毘羅尾根、更にその上には蕎麦粒山から棒の尾根山等の尾根だ。

東側には、飯能の先に狭山丘陵あたりまでが確認出来るも、その先は霞みの中だ。北側は梢越しではあるが武川岳や二子山も確認できた。休憩後ブナ・檜・リョウブ等のコースを5分程下がると山伏峠への分岐点だ。ここからトラロープを頼りに5分程下降すると再び杉・檜の林となり、5分程で左側に西吾野駅を示す道標である。

細い尾根の西側には山頂で見た碎石場も見え、15分程で古御岳(830m)の山頂である。山頂には休憩用の四阿屋があるも神を祀る祠は見当たらなかった。山頂からの眺望は360°あるが、全て梢越しであり残念だ。休憩後35分で先ほどの山伏峠の標識があった地点まで戻り、下山である。落葉樹の中を5分程下がると又もや檜と杉の林である。30分程すると車の音が聞こえ・小さな石の祠を過ぎると県道53号だ。武川岳への道標を左手に見て10分程で駐車場へ辿り着いた丁度3時間(10000歩)の山旅でした。(h31.2.5)

古御岳から連なる尾根上に子の権現が祀られており、西吾野駅近くの林道から車で登り参拝し足腰のお守りを頂き、天目指(アマメザス)峠を経て名栗から青梅へと廻り帰宅しました。ところで天目指とは親指大の柿の実の事で焼畑耕作にて作られていたとの事です・・

階段と積雪



伊豆ヶ岳山頂



古御岳山頂



子の権現の草鞋と下駄

